

ほ ど 教育センター通信

火床の火の心を紡ぐ

第4号（通算87号）
令和3年7月28日
三条市小中一貫教育推進課
教育センター 発行



「デジタルとアナログ」

教育センター統括指導主事 青木利恵子

一ノ木戸小学校のICT教育の授業を参観しました。ローマ字入力でのタイピングやグループフォームによるアンケート作成など、教師の助言無しにどんどんと自分たちで進めている子供たち。見事にクロームブックを使いこなしている様子に感心しました。一ノ木戸小学校が、昨年度、モデル校として実践を着実に積み重ねてきた成果であると感じます。

研究主任から、一ノ木戸小学校では「デジタルとアナログ」の両方を取り入れることを心掛けていることを聞きました。「書くこと」「聞くこと・話すこと」などの従来から大切にされてきたことを学習活動に位置付けながら、ICTの活用をするとのことでした。

自分は、毎日の出来事を手帳に書くようにしています。日記ではなく、あくまでもメモで、「誰からどのような電話をもらった」とか「どのようなメールを学校に発信したか」など仕事上の備忘録です。「書く」という行為は、思考が整理され、記憶の定着の効果があると言われていました。このメモが仕事をする上で、自分の中では、大変役に立っています。

ICTは、これからの子供たちにはなくてはならないものであり、ICTを活用する授業を行うことは必須です。多くの情報を見極めながら、その情報を生活や仕事、社会に役立てようとする子供たちへと育成しなくてはなりません。オンライン会議やラインなどのアプリの活用等で、コミュニケーションの在り方も、今後、変化していくのでしょうか。また、デジタルによって、個別最適な学習や教職員の働き方改革がなされていくことが今後期待されています。

そうしたICT活用の良さもさることながら、アナログな「書くこと」や対面による「話すこと・聞くこと」の良さも意識しながら、バランスを取って教育活動をしていくことが大切のように思います。

三条学園

あいさつ運動

三条学園では、年3回、あいさつ運動を行います。7月に1回目の活動が行われました。第三中学校の生徒が出身小学校に行き、小学生と一緒に、登校時のあいさつを盛り上げていました。保護者の方も横断歩道の近くや児童玄関の前に立ち、あいさつを交わしていました。今後は、子供や教職員、保護者、地域の方から、あいさつ標語を募集し、あいさつへの意識を高める活動を考えているそうです。



【上林小学校の様子】



【裏館小学校の様子】

大崎学園

7月9日「子どもがつくる弁当の日」



【前期課程の様子】



【後期課程の様子】

7月9日（金）、全校で「弁当の日」を実施しました。また、学園の5年生から9年生を対象に「第1回子どもがつくる弁当の日」として、学年に応じた取組を行いました。

前期課程（5、6年生）は、家族が用意してくれたおかずをお弁当箱に工夫して詰めたり、おかずの一部を自分で作ったりすることに取り組みました。

後期課程（7、8、9年生）は、自分でおかずを作ったり、お弁当箱に詰めたりして、徐々に自立の度合いが高くなっていきます。

自分で作ったお弁当を食べて、子供たちはどのようなことを感じているのでしょうか。

「弁当の日」を通して、子供たちは自立に向けた生活力を身に付けたり、自分の健康を支える食について考えたり、日々の食事を用意してくれる家族のありがたさについて学んだりしていきます。これらの取組が子供たちをさらに成長させていくのだと感じます。

給食やお弁当を、皆で和気あいあいと食べる日常が早く戻ってほしいと改めて感じます。

一ノ木戸ポプラ学園

学校運営協議会



話し合った内容をグループごとに発表し、全体で共有しました。熟議の内容を基に、今年度の取組を検討していきます。

「目指す子供の実現に向けて学園運営協議会として何ができるか」について、少人数のグループに分かれて熟議を行いました。学校・保護者・地域のそれぞれの立場から様々な意見が出されました。



瑞穂学園

眠 育

正しいリズムで毎日の生活を送ることができるよう、年間で3回の「睡眠調査」を行っています。今年度は、睡眠時間だけでなく「メディア使用」についても意識して取り組んでいます。

<令和3年度の目標>
小学校

- 1 入眠時刻を1～3年生は21時、4～6年生は21時30分を目指す。
 - 2 起床時刻は6時30分を目指す。
 - 3 メディアの使用を1日1時間以内にする。
 - 4 朝食を毎日摂取する。
- ※中学校の入眠時刻は、1年生が22時、2・3年生が22時30分を目指す。

睡眠調査表

さかえ学園

今年度の小中一貫教育

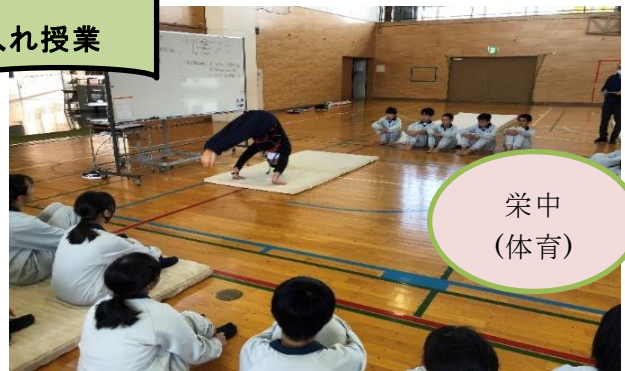
教育を推進する上で大切なことの一つは、カリキュラムのつながりを意識することです。さかえ学園では、昨年度、各教科で目指す子供像を小グループに分かれて話し合い、冊子にまとめました。

今年度は、この目指す子供像を基に、小中一貫で授業を進めていきます。また、乗り入れ授業も2学期に、小学校教諭が中学校に外国語に乗り入れ、中学校の教師が算数と体育に乗り入れて授業をする予定です。



大面小
(社会)

昨年度の乗り入れ授業



栄中
(体育)

防災教育授業研修（6月29日実施）



6月29日（火）に、三条嵐南学園で防災教育授業研修を実施しました。嵐南小学校では2年生、4年生、6年生、第一中学校では1年生の代表学級で授業公開を行いました。

今回は「新潟県防災教育プログラム」をもとに、洪水災害を扱った授業を各学級で行いました。児童生徒の多くは、三条で起きた洪水災害の記憶がない子供たちやまだ生まれていない子供たちです。子供たちに、いかに自分事としてとらえられるようにするか、授業者の工夫が見られました。

見られました。

また、授業後には学園職員を対象に、安全管理の研修を行いました。講師に群馬大学大学院の金井昌信教授をお迎えし、避難所運営をテーマに、状況が刻々と変化していく中で素早い判断をすることや、日頃からの地域のつながりの重要性を学ぶことができました。

「実際に災害が起きた時は、限られた情報の中から様々なことを考えなければならない」、「想像力を働かせて様々なことを選択できるように思考訓練する必要がある」ことを学ぶ貴重な機会になりました。

三条市教職員全体を対象とした防災教育授業研修は、11月19日（金）に三条嵐南学園での開催を予定しています。これまでに受講されていない方は、ぜひ御参加ください。



出前講座いかがですか？

新潟県漢詩連盟の佐藤海山様（三条市在住）が、昨年度に引き続き、三条市立小・中・義務教育学校に出前講座をしてくださるとの申し出を受けています。昨年度は、森町小学校6年生の児童が、佐藤様から漢詩の作り方を学習し、漢詩についての理解を深めました。次のような講座を各学年の発達段階に合わせて、お話していただきます。

漢字の話	漢字の成り立ちについて、甲骨文字をなんと読むのかクイズを交えながら楽しく学習します。
渋沢栄一と諸橋轍次博士	諸橋轍次博士は渋沢栄一と親交があり、渋沢栄一が三条に来た記録などお話いただけます。大河ドラマとリンクしながら聞いてみたらいかがでしょう。
漢詩の作成	漢詩の理解に役立ち、楽しみながら自分の漢詩を作成します。小学生でも十分楽しめます。

申込みは、三条市教育委員会教育センター青木（内線249）が窓口となりますので、希望される学校は御連絡ください。



「漢字の話」は、毛筆で甲骨文字を書いて、クイズに出します。写真の文字は読めますか？